

モデルプログラム L-2 保護者・地域とのネットワークー外国人保護者との関係づくり

ねらい	課題を捉える多様な視点を理解し、保護者と連携しながら課題の解決に取り組もうとする態度を養う
対象	<input checked="" type="checkbox"/> 教師を目指す学生(教員養成課程他) <input checked="" type="checkbox"/> 日本語教育を学ぶ学生 <input checked="" type="checkbox"/> 現職日本語指導担当教員 <input checked="" type="checkbox"/> 現職一般教員 <input checked="" type="checkbox"/> 管理職 <input checked="" type="checkbox"/> 指導主事 <input checked="" type="checkbox"/> 日本語支援員/母語支援員
日本語指導・外国人児童生徒等教育の経験	<input checked="" type="checkbox"/> 経験なし <input checked="" type="checkbox"/> 1年目 <input checked="" type="checkbox"/> 2-4年 <input type="checkbox"/> 5-9年 <input type="checkbox"/> 10年以上
高めたい資質・能力	<input type="checkbox"/> 捉える力(子どもの実態把握) <input type="checkbox"/> 捉える力(社会的背景の理解) <input type="checkbox"/> 育む力(日本語・教科の力の育成) <input type="checkbox"/> 育む力(異文化間能力の涵養) <input type="checkbox"/> つなぐ力(学校作り) <input checked="" type="checkbox"/> つなぐ力(地域作り) <input checked="" type="checkbox"/> 変える/変わる力(多文化共生社会の実現) <input type="checkbox"/> 変える/変わる力(教師としての成長)
主な内容	L 保護者・地域とのネットワーク
活動形態	<input type="checkbox"/> 講義型 <input checked="" type="checkbox"/> 活動型 <input type="checkbox"/> フィールド型 <input type="checkbox"/> 実習
時間	60分
流れ(・項目)	活動(◇活動の工夫)
1. 保護者との関係で困っている事を話し合う。(10分)  2. 外国人保護者が日本の学校で直面する課題を理解する(20分) ・学校文化(D) ・保護者の社会的状況への配慮(L)  3. ロールプレイを振り返る(15分) ・日本語力への配慮、教育制度・学校文化の理解、保護者の社会的状況への配慮(L) ・多文化家族	1. 外国人児童生徒等の保護者とどのように連絡を取り合っているか、問題があるか、簡単に紹介しあう。 グループで、話し合い、模造紙に書き出す(右半分に)  2. 外国人保護者と学校の関わりに関する事例に基づいて、ロールプレイを行い、保護者が直面する課題について理解する。 1) グループで保護者の立場、担任の立場、日本語教室担当者の立場に立つ人を決め、事例を読み解く。 2) それぞれの立場で、読み解いたことをもとに、ロールプレイを行う。  3. ロールプレイを振り返る。 1) 次の観点からグループでロールプレイを振り返る。 ・それぞれの立場の訳を演じて、どのように感じたか。 ・なぜ意見のすれ違いが起こったか。 ・見方のズレを解決するためにはどうすればよかったか。 2) 気付いたことを全体で交流する。 ◇次の視点から、話し合いを整理する。 ・教育制度      ・学校文化の違い      ・行動規範の違い、 ・保護者の日本語の力や情報収集の困難 ・保護者と子どもの文化・言語にも徐々に違いが生まれる
4. 保護者と円滑に連携するための方策を考える(15分) ・保護者の教育参加の促進(L)	4. 保護者との円滑な連携を進めるためにどうすればよいか、方策を話し合う。 1) 1の活動で書き出した問題から、1つ選び、解決策を話し合う。 模造紙に書き入れる(模造紙左半分に)。 2) 話し合いの結果を発表し、全体で交流する。
備考	